

## 解答

一

問一 （すべての植物は毒を作っていて、昆虫はそのことに対応していかなければならない以上、）食べられる植物を増やすよりも、特定の植物を食べ続けられるように進化する方が効率的だから。

問二 いたち（こっこ）

問三 エサであるウマノスズクサが作る毒成分を、ジャコウアゲハが自らの体内に蓄え、自分自身の身を守ることを利用して点。

問四 エサにする植物の毒を利用し自分の身を守っている点と、目立つ色をして自分が有毒であることをアピールしている点。

問五 昆虫の脱皮を促す成長ホルモンのような物質を持ち、早く害虫を成虫にさせ、害虫が葉っぱの上で過ごす期間を短くし、葉をたくさん食べられないようにする作戦。

二

問一 「ありがとう」と言うのが当たり前になっているということ。

問二 いつもなら準備にできるだけ時間がかからないようにして待っている「ぼく」が全く準備していなかったことを、怪訝に思ったから。

問三 「ありがとう」と言わなかったことに気づかれてしまったので、言わなければならない状況に追い込まれたから。

問四 弟に自分の面倒を見ると両親が言っているのが聞こえ、自分が弟より下の立場であるとみなされているように思い、自尊心が傷ついたから。

三

① 模型      ② 街路樹      ③ 領域      ④ 歴然      ⑤ 善処      ⑥ 許容      ⑦ 衛星      ⑧ 拝借  
⑨ 無残      ⑩ 希求      ⑪ 疑「う」      ⑫ 易「しい」      ⑬ 耕「す」      ⑭ 省「く」      ⑮ 覚「める」

## 解説

一

問一 傍線①の3段落後に、「どうして、昆虫たちは、こんなにも偏食家なのだろうか。」という問題提起があるので、その傍線部に続く段落に着目する。植物は昆虫に食べられないように毒を作り、昆虫はその毒に対応して進化する。すると植物は新たな毒を作り出し、昆虫も進化する。このような関係を繰り返すことになるが、他の食べられる植物を探すよりも、工夫して食べてきた植物を食べる方が効率が良いからである。因みに、このように一対一で進化が進んでいくことを「共進化」という。

問三 傍線③「悪知恵がはたらく」の直後の一文に「植物がせっかく作った毒を、逆に利用する悪い奴まで現れた」とある。そこで、具体的にどのようなように利用するのかを直後の段落を参考にして具体的に書く必要がある。つまり、アリストロキア酸という毒成分で身を守っているウマノスズクサをジャコウアゲハが食べ、その毒素を体内に蓄積することで、捕食者である鳥に食べられることがないようにしているのである。

問五 イノコヅチという植物は昆虫の脱皮を促す成長ホルモン物質を作り出している。そのイノコヅチの葉を食べたイモムシの成長は早く、大して体も大きくならないうちに脱皮を繰り返し成虫になる。つまり、葉っぱの上で過ごす幼虫の期間が短くなり、結果として葉っぱを食べられる量が少なくなるのである。

二

問一 「呼吸のようなもの」とあるので、意識せずに使用しているものである。つまり、体の不自由なテオは、他人の助けを借りなければ生活ができないのであり、何かをしてもらった後には、礼儀正しく「ありがとう」と言っていたのですね。

問二 傍線②の直前で、クリスティヌは「ちょっと、テオ、何やっているの？ 準備できていないじゃない」と言っていることから、普段は「準備にできるだけ時間がかからないように」しているのですね。いつもと異な

る態度に、怪訝に思っているのですね。

問三　あまり「ありがとう」と言わないようにしようと決意をしていたが、お世話をしてくれたシャンタルに「あら、『ありがとう』と言わないの」と言われ、「ありがとう」と言わずに済ませられる状況ではなかったから。

問四　生まれつき両足と左手が不自由なテオは、誰かの世話にならなければ生活していけないのであり、一人前の人間として認めてもらえないことを、ご両親の言葉から知ったからですね。